長崎川棚医療センター広報誌

養氣軒

ようきけん

Nagasaki Kawatana Medical Center

vol.105
2024 Summer

『さわやかな笑顔と思いやりの心で、安心、安全な満足される医療をめざします』
そのために、患者さんは言うまでもなく全職員ひとり一人を大切にします。

●ようきけんとは「病む人の病のみならず心をも癒すことの出来るところ」という意味です。

食中毒にご用心！

《どうして食中毒になるの？》

食中毒とは、食中毒を起こすもととなる細菌やウイルスなどの有毒な物質がついた食べ物を食べることで、下痢や腹痛、発熱、吐き気といった症状が出る病気のことです。

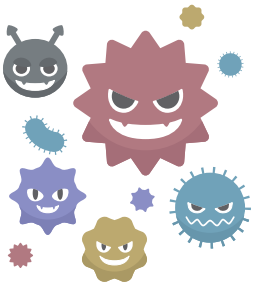
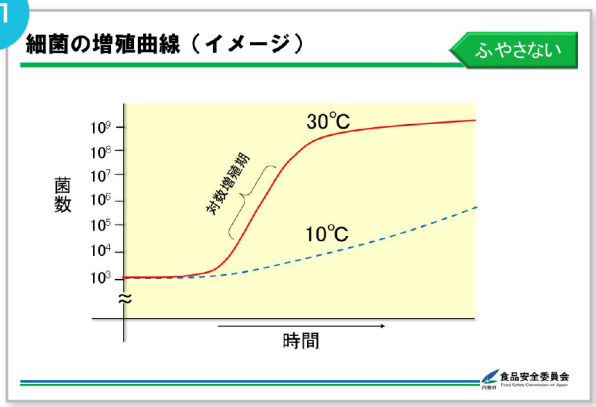


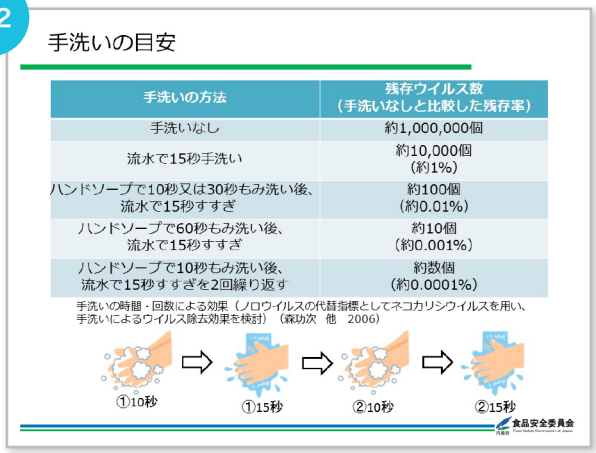
図1



《家庭における食中毒予防の3原則》

食中毒は飲食店での発生のイメージがありますが、家庭の食事でも発生する危険性が潜んでいます。
とくに気温が高くなる夏場は、細菌が原因となる食中毒が多くなる時期です。
ほとんどの細菌は10℃から60℃の温度帯で増殖し、特に35℃前後でもっとも活発に増殖するといわれています（図1）。
食中毒は予防に努め発症しないように注意していきましょう。

図2



手洗いの目安

手洗いの方法	残存ウイルス数（手洗いなしと比較した残存率）
手洗いなし	約1,000,000個
流水で15秒手洗い	約10,000個（約1%）
ハンドソープで10秒又は30秒もみ洗い後、流水で15秒すすぎ	約100個（約0.01%）
ハンドソープで60秒もみ洗い後、流水で15秒すすぎ	約10個（約0.001%）
ハンドソープで10秒もみ洗い後、流水で15秒すすぎを2回繰り返す	約数個（約0.0001%）

手洗いの時間・回数による効果（ノロウイルスの代替指標としてネコカリシウイルスを用い、手洗いによるウイルス除去効果を検討）（森功次　他　2006）

図1・図2とも出典／内閣府ホームページ
食中毒菌の科学的基礎データ：食品安全委員会 - 食の安全、を科学する（fsc.go.jp）

つけない

- 調理前やトイレの後、食事の前には必ずよく手を洗いましょう（図2）。
- 調理器具や食器、タオル類は清潔なものを使用しましょう。
- 肉・魚用など調理器具等は用途別に分け、洗浄・消毒しましょう。
- お買い物の際は、肉や魚はビニール袋に包みましょう。

ふやさない

- 食材や料理は長時間室温に放置しないようにしましょう。
- 肉や魚など生鮮食品を購入時は、保冷剤（氷）を使用しできるだけ早く冷蔵庫へ移しましょう。
- 飲み残したペットボトルの飲料なども冷蔵庫で保管し、その日のうちに飲み切りましょう。

やっつける

- 加熱が必要な食品は中心部までしっかり加熱しましょう。
- お惣菜やお弁当なども電子レンジで加熱しましょう。

（管理栄養士　山下 真喜子）

Topics 【トピックス】

劇症型溶連菌感染症に気をつけて

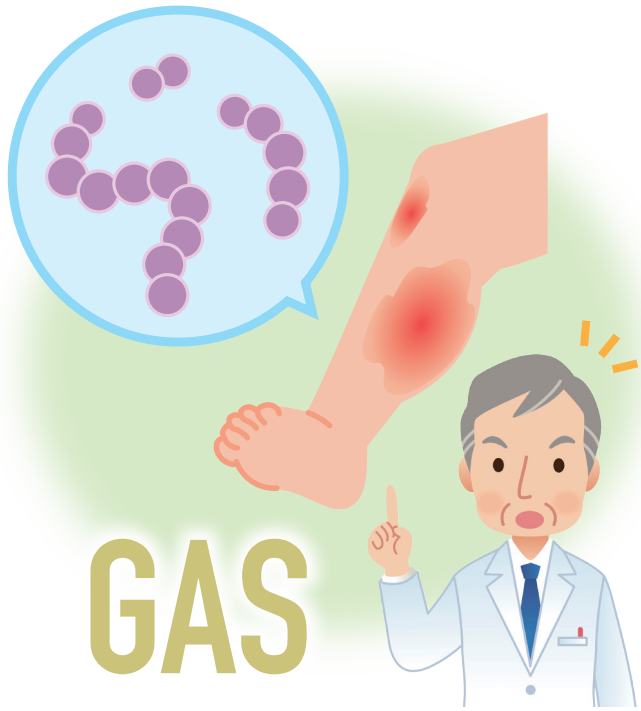
臨床検査技師 天本 凛香

致死率が非常に高く、「人食いバクテリア」と呼ばれる劇症型溶血性連鎖球菌感染症は重篤な感染症です。原因菌の多くはA群溶血性連鎖球菌（Group A Streptococcus pyogenes : GAS）という細菌です。飛沫感染、接触感染で広がります。

最近、早期診断技術が進展し、検査材料から酸または酵素を用いて多糖体抗原を抽出し、特異抗体により検出している迅速抗原検査やPCR法により初期段階での正確な診断が可能となりました。

予防策として手洗い、手指消毒、マスクといった基本的な感染対策を継続することが必要です。

また、手足等の傷口から感染する場合があるため、傷口を汚い手で触らないなど、清潔に保つことが大切です。



Topics 【トピックス】

『ポリファーマシー』をご存じですか?

副薬剤部長 横田 千明

高齢者は複数の併存疾患を有することが多く、治療のために多くの薬を併用（多剤併用）しています。多剤併用は薬の副作用など何らかの薬物有害事象の増加、服薬過誤や服薬アドヒアランスの低下といったリスクを引き起こすことがあり、これをポリファーマシーと呼びます。

薬物有害事象は薬剤数に比例して増加し、6種類以上の薬の服用が特に薬物有害事象の発生増加に関連するといわれています。

薬剤部では多職種と情報共有を行い、入院患者さんのポリファーマシーにも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

薬の種類が多い、薬を減らしたいという希望がある患者さんがいらっしゃいましたら、薬剤師にご相談ください。

Topics【トピックス】

医療被ばく低減に向けての取り組み

RI検査主任 甲 卓馬

近年、医療被ばくに対する関心が高まっています。日本は、医療被ばくが世界的に高いと報告されており、特にCT検査における被ばく線量の大きさが注目されています。

当院では、線量管理システムを導入し、最小限の放射線被ばくで適切な検査が行えるように、診断参考レベル（Diagnostic Reference Level：DRL）を用いながら、「被ばくの最適化」を行っています。

DRLとは、各施設での被ばく線量調査の結果から、高い線量を用いている検査や装置を特定し、改善する指標です。

これからも皆さんが安全かつ安心して検査を受けることができるように、被ばくの正当化や最適化、そして低減に取り組み続けていきます。

Topics【トピックス】

『摂食嚥下・口腔サポートチームの役割』

言語聴覚士 久家 寛史

当院で取り組んでいる摂食嚥下・口腔サポートチームの取り組みについてご紹介します。

コロナ禍で入院中の面会が禁止となり、十分な入院の準備が出来ず入院中に必要な口腔ケア用品が用意できない患者さんが増えていました。そこで、口腔内環境を改善できるような取り組みとして、院内でチームの立ち上げの準備を進めていき、既存のNST（栄養サポートチーム）メンバーが中心として活動に携わることで「摂食嚥下・口腔サポートチーム」が発足されました。

当チームは、定期的な病棟回診から、継続的な口腔ケアの提供、摂食・嚥下機能評価へつなげ、患者さんの栄養状態の改善や更なる機能低下を予防することを目的として活動しています。活動内容は、週に1回チームで各病棟をラウンドし、口腔ケアをする際の視点や実施方法などを看護師と相談・助言などを行い、より質の高い口腔ケアが出来るように努め、必要に応じて嚥下訓練のリハビリの処方を依頼しています。

今後も院内で発生する誤嚥・窒息の予防に努めて取り組んでまいります。

Topics 【トピックス】

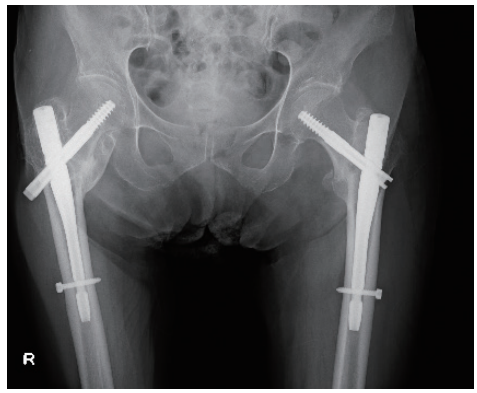
診療科紹介（整形外科）

整形外科医長 **藤本 勝也**

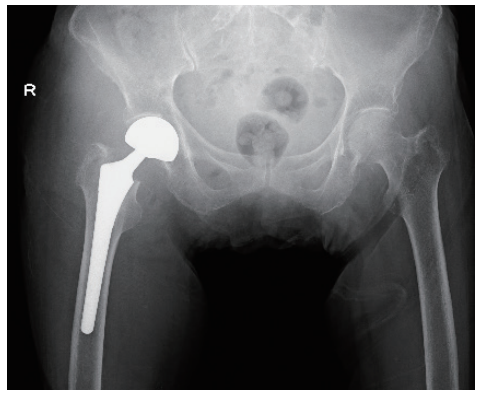
整形外科とは、人体の運動器官の疾患や外傷を取り扱う診療科です。頭部・顔面と内臓以外の部分の骨、関節、靭帯、筋肉を治療いたします。その診療範囲は非常に広く、多岐に わたります。また、単に疾病や怪我を治すだけでなく、運動機能を回復させることを目的とした治療も行います。

外来患者さんは1日平均12.5人、入院患者さんは1日平均15.5人です。入院治療は骨折等の外傷性疾患が主です。近年はクリティカルパスを導入し、患者さんに治療の経過がわかるように努めています。

整形外科は、夜間・休日等の時間外での患者さんが多いのですが、時間外でも可能な限り対応しておりますので、必要な場合は遠慮なく電話でご連絡いただき受診されてください。



大腿骨頚部骨折の骨接合術後



人工骨頭挿入術後

Topics 【トピックス】

部署紹介（療育指導室）

主任児童指導員 **浦川 萌**

療育指導室とは、8病棟で障害福祉サービス（療養介護）を受けられている方々に対し、個々の趣向や心身の状態に応じた日中活動（個別、サークル活動など）や余暇活動（手芸、パソコンなど）、行事（イベント）を企画及び運営しています。その他にも障害福祉に関する福祉相談やボランティア受け入れなど福祉を専門とした部署となっています。

配置されている職種は、児童指導員及び保育士です。スタッフ3名と少人数体制ではありますが、利用者の方々やご家族の想いに寄り添えるよう日々努力しています。

令和2年以降はコロナ禍の影響もあり、外出支援や外部のイベント演者を招いての行事開催が困難となっていますが、利用者の方々にとって楽しみが持てるような時間や個別性に応じた活動を今後も提供していきたいと考えています。

編集後記

庶務係長 森 翔一朗

今年も早いもので半分が終わりました。最近蒸し暑い季節となってきましたが、もうすぐ本格的に夏がやってきます。今年の夏も猛暑となるようです。
暑さに負けないためには普段からの体力づくりが大切です。栄養バランスの取れた食事、十分な睡眠、適度な運動を日ごろから心掛けていきましょう。食事に関して、今回の養氣軒では「食中毒」について掲載されております。特にこの時期は食中毒が心配な時期でもありますので、ぜひご参考いただき、今年の夏を楽しめるようにしましょう。最後までお読みいただきありがとうございました。